

■イスラエル菅

(TLCCC札幌フィラデルフィア教会・牧師)
皆様の執り成しのお祈りを心から感謝いたします。神様の恵みにより4年連続でイスラエルに導かれました。

今年はイスラエル建国70年目という節目の年でもあり、私の夫であるサムエル菅牧師が2015年のイスラエルチームの際、肺炎になりオリーブ山にある病院から召されてから3年経ち、私にとっても特別のチームでした。



そのような中で神様はパウロ秋元牧師を通して「天のエルサレム」に通じる扉の意味合いをさらに開いてくださり、私たちの思いを更に天へと近づけてくださいました。天のエルサレムが地上に降りてくるのは、解かりやすく言うなら黄金のドームのあるあたりとのことです。

私たちがオリーブ山で祈ることには深い意味があることが解き明かされました。私たちが礼拝をし祈っているまさにその場所は、天のエルサレムが地上に降りて来た時、我々が御座に向かって礼拝する場所でもあるそうです。ハレルヤ！

エルサレムからガリラヤへ、そして再度エルサレムに戻って、滞在ホテルで私たち親子に与えられたA棟の303号室の部屋に入って驚きました。天のエルサレムの神殿が地上に降りてくる絵が飾られてありました。

前年度、2017年のイスラエルチームでは、色々と困難が許され、忍耐が試された年でもありました。同時に神様が与えてくださった恵みでもありました。今年は具体的に祈り備えることが出来たからです。

今年のイスラエル入国と同時に、「あなたの祈りは聞かれます。」と、主の語りかけを受けました。ホテルに到着し、与えられた部屋へと、エレベーターを降りると、エレベーターのドアの真ん前が、私たちの部屋でした。

昨年はとても奥まった部屋で迷ってしまったので、「エレベーターの近くをお願いします」と祈っていました。祈りが答えられただけではなく2倍の祝福が用意されていました。チョコレートのデコレーションケーキが用意されてあったのです。ハレルヤ！その後も一つ一つ祈ったことが聞かれてゆくのを体験させられました。

また、イスラエルチームが出発する1週間程前にテレビを見ていると以前起きた飛行機事故のことが放映されていました。着陸に失敗し飛行機は真っ二つになり、炎上し乗客の半分は死亡し、半分は助かったということでした。その後原因が判明し、かつてないほどの大きな雹が高度を引き上げるための機戒に入り込み、着陸は無理だと判断した機長が高度を引き上げようとしたが、雹のため動かず起きてしまった事故だということでした。直ぐに祈りだしました。祈禱会でも祈りました。

私たちは主からの語りかけをしっかりと受け取るためには、絶えず目を覚まして祈っていなければいけないと痛感させられています。このイスラエルチームを祝福して下さり、完全にまもってくださった主にすべての栄光をお捧げいたします！

■小代美智子

(TLCCC 東京アンテオケ教会/ミッションスタッフ)

皆様の尊いお祈りを感謝致します。私は、クリスチャンになって19年たちますが今回が初めてのイスラエルチーム参加で、しかもミッションスタッフとして初派遣でいったいどんな感じになるのかと、ワクワクしていました。



というのも他にベテランのスタッフが6人もいたので私は先輩方の後ろについていけばいいあと安心していました。しかし、現地に行ってびっくり、聖地をめぐるツアー組に全コース、ミッションスタッフとして参加することになり、しかもミッションスタッフが私だけの日もあり、神様に頼るしかないという状況に追込まれました。こんな頼りないスタッフでは、参加されたメンバーの方に申し訳ないと恐縮しながら同行させて頂きました。とにかく、全員無事に帰って来られるように、危険な目に誰一人遭わないように、全員が神様からの祝福を必ず受けて帰れるように祈りました。ツアー組のリーダーは、S牧師がほぼ毎日担当してくださり、又、ご夫妻で参加された牧師の方々が、それぞれ1日ずつ奉仕をしてくださいました。

ガイドの通訳も、前半、後半と、それぞれ別の女性が労してくださり、いつも最後尾に用心棒の方がメンバーを見守ってくださいました。また、ブログ係、映像部等と共に他のメンバーの方々も、本当に献身的に協力をして頂きました。教会は、キリストのからだと聖書にありますが、それぞれが、各器官で、尊い神の働きをしておられるのだなあと感動しました。また、力不足の私に非常に多くの主の助けがあり、また執り成しのお祈りに支えられ、全ツアーを終えることが出来ました。その中で、ガリラヤ湖の船上礼拝の際、賛美し礼拝したとき、ここまで導いてくださった神様の愛に感動して涙が止まりませんでした。

また、ロシア系ユダヤ人の教会に、チーム全員で行ったとき、印象的なのが、彼らの賛美でした。賛美の奉仕者の方々が、ことあるごとに、講壇の上で楽器を奏で、賛美をしていました。それもどこでやめるのだろうと思うほど、ずっと演奏しているような印象を受けました。集会の最後は、我がチームメンバーにもお呼びがかかり、たくさんの方がロシア系ユダヤ人の方々と一緒に手をつなぎ、輪になってダンスし、主を賛美し喜んでいました。それを見ていて、天国ってこんな楽しい感じだろうか、と想像しました。

11月4日(日)のガリラヤ湖畔での新年礼拝は、快晴で気温も高く、霊も体も熱くなる中、新年のみことばを受けました。マタイ13:23「ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは、三十倍の実を結びます。」と語られました。

新年礼拝の後、アルベル山で礼拝をささげている時でした。天気なのに小雨が降りだし、雷鳴も聞こえてきたことは、神様の語りかけとしか思えませんでした。その雨も不思議な雨で太陽の光に反射してキラキラ輝いて、なんとも心地よく、ずっとこの雨に当たっていたいと思うほどでした。

翌日の月曜日には、二人の方の洗礼式がヨルダン川で行われました。その夜の聖会でのお二人の証が純粋で、とても心に残りました。私も19年前の洗礼式を思い出し、神様がくださった恵みを忘れていたことがなんと多いかに気付かされました。まだまだ書き切れない程多くの祝福を今回のチームで受けました。来年も是非行きたいと神様に祈っています。